

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	菊地 健太	学校名	大阪府立金剛高等学校
実施学年	1 年	教 科	言語文化
単元名	漢文・故事成語「朝三暮四」		

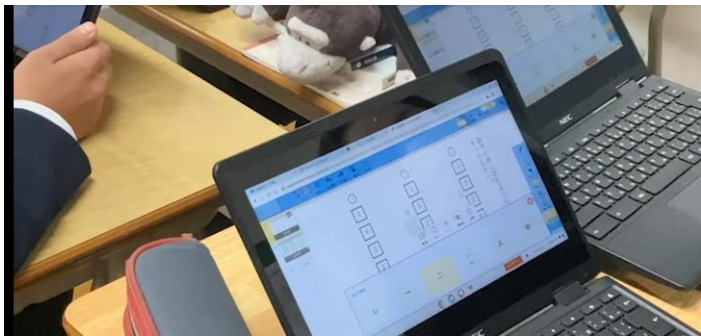
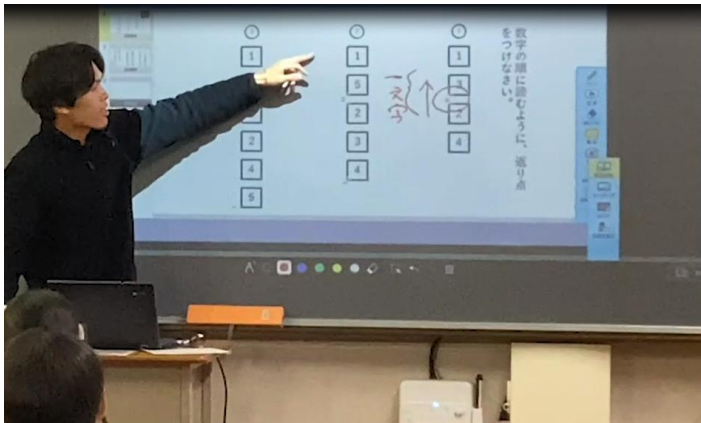
《学びを深めたいポイント》

漢文訓読の基本である返り点のルールについて、問題演習を通して学ぶ。その際、個人演習では作業を進められない生徒も多いので、発表ノートのグループ機能を活用して共同編集できるようにし、グループで相談しながら作業を進められるようにした。

《SKYMENU 活用のポイント》

高校が授業支援アプリを活用するうえで、問題演習形式で利用できることの価値は大きい。今回は発表ノートを単に自由な発表をするためのものではなく、高校漢文の問題演習として活用できるように事前準備した。紙を用いたワークでは実際に記入して、間違っていると思ったら消して書き直すという作業が必要になるが、付箋で返り点のアイコンを作成して「資料置き場」においておけばドラッグ&ドロップで簡単に試行錯誤できる。また、作業の様子を一覧で即時確認できるので、制限時間がきたら全班のワークシートを見渡してその場でフィードバックすることができる。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	【Ⅰ.訓読の基本の振り返り】(15分) ・これまで学習してきた漢文の基本的な用語の意味についてクイズ形式で確認をおこなう。 ・実施後、振り返りをおこなう。		
展 開	【Ⅱ.グループで訓読の練習をおこなう】(15分) ・導入で確認した知識を用いて、訓読させる。 ・実施後、振り返りをおこなう。 (生徒が操作している様子)  (電子黒板で生徒の解答にフィードバックしている様子)  【Ⅲ.個人で訓読の練習をおこなう】(10分) ・漢文を書き下し文に改めさせる。 ・実施後、振り返りをおこなう。	発表ノートを作業グループごとに操作させて漢文訓読の問題演習をおこなう。	付箋で返り点を事前に作成しておき、生徒はそれを配置して解答する。
ま と め	本時で学んだ内容について「気づきメモ」に保存する。	本時のふりかえりとして5分程度でおこなう。	グループメモ機能を利用して、クラス全体のメモを見られるようにする。

《実践を振り返って》

生徒は付箋でつくった返り点のアイコンを操作していろいろなパターンで返り点を置き、どう配置するのが正しいのかを考えることができた。

授業担当者が生徒の画面を把握していることも伝わっているので、生徒は一定の緊張感をもって作業に取り組んでいた。

気づきメモについては、自分のメモに「いいね」が欲しいという気持ちから振り返り内容を吟味している様子がうかがえた。